

沖・韓・日 共同アピール

米軍基地の75%の集中する沖縄において、2004年10月23日、自由法曹団主催で沖・韓・日のシンポジウムが開催され、日本と韓国における米軍基地被害の実態と訴訟、地位協定、憲法9条改悪などのテーマについて報告・討議がされた。

私たち参加者はこのシンポジウムを経て、以下のアピールをすることとした。

- 1 日本と韓国にある米軍基地は、軍事的な世界支配を狙うアメリカの世界戦略の一翼を担っている。また、8月に起きた米軍ヘリの沖縄国際大学構内への墜落事故は、米軍基地が市民の生活と生命を危険にさらしていることを示した。私たちは、平和を守り基地被害をなくすために、アメリカの世界戦略に反対し、今後とも米軍基地撤退、返還の運動や訴訟をより一層発展させていこう。
- 2 現在アメリカはイラクに対して全く正当性のない侵略戦争を行っており、日本と韓国の政府もアメリカに追随して派兵している。平和な東北アジアを目指す私たちは、紛争を軍事的に解決しようとするいかなる試みにも反対し、イラクから派兵を撤退させる運動を引き続き行っていこう。
- 3 現在、日本国憲法第9条が改悪されようとしている。戦争の放棄、戦力の不保持を定めた憲法9条は、世界の宝であり、平和な東北アジア地域をつくる上でも不可欠である。私たちは、憲法9条の改悪に反対し、憲法9条の理念を東北アジアで実現させていこう。
- 4 朝鮮半島の核危機の根源は、アメリカの北朝鮮に対する敵視政策にあり、この問題の解決は、東北アジアが平和の地域になるか否かの分岐点である。私たちは、朝鮮半島の非核化、主権尊重、平和共存の原則にもとづいて、軍力ではなく平和的に対話で解決されるよう政府や世論に働きかけていこう。

2004年10月23日

沖・韓・日シンポジウム参加者一同